

私たちの身のまわりには、かつて多くの人でぎわった空きビルや空き店舗が残っています。

近年、全国各地では、こうした建物の魅力に改めて目を向け、今の暮らしに合った使い方を見つける動きが広がっています。

沼津でも、長く使われてきた建物を活かしたお店や、人が自然と集まる場所が少しずつ増え、まちの雰囲気がゆつくりと変化し始めています。

今回の特集では、沼津で進むリノベーションまちづくりについて紹介します。まちの動きをることで、何気ないまちの景色がいつもより面白く見えかもしれません。あなたも沼津のまちをもっと楽しくみませんか。

# リノベーション まちづくり



1. 人が自然と集まる居心地のいい場所として生まれ変わった沼津新仲見世商店街 2. 毎回多くの人でぎわった週末の沼津

3. 廃業した旅館をリノベーションしたホステルTagore-タゴール- 4. 企業版リノベーションスクールで語り合う民間の担い手と市職員

沼津市リノベーションまちづくりは平成27年にスタートし、リノベーションスクールや講演会、ローソンワークショップなど様々な取組を通じて、誰もが帰ってきたくなる、人に自慢したくなるまちを目指してきました。

その歩みの中で見えてきたのは、まちを動かしているのはそこに関わる人たちの存在だということです。個々に活動する担い手や市民が気軽に参加できる場が増えるにつれ人と人のつながりが生まれ、新たな挑戦に結びついでいます。

昨年度、新たなステップとして「企業版リノベーションスクール@沼津」が始まりました。沼津をもっと面白くしたいという企業の人たちが集まつて、先行事例を学び、意見を交わしながら自社のプロジェクトを磨き上げます。

初年度は11社が参加し、高校生に自習室を提供する事業や、遊休住宅を社内外の人々が交流できる場にする企画が生まれました。今年度は11社が参加し、地域コミニティースペースの立ち上げなどについて話し合っています。

昨年度は参加企業として、今年度はアドバイザーとして携わる株式会社大志建設の杉澤さんは、「みんな自由な発想でやっていますが、回数を重ねるごとに意識や考えがポジティブになって



リノベーション先  
まとめ動画配信中

リノベーションとは、今あるものの良さを活かしながら、新しい使い方で価値を生み出すことです。使い方を変えずに元の姿に近づけるリフォームとは異なり、建物の役割そのものを大胆に変えることが特徴です。

そしてこの考え方を空き家や空き店舗などの建物から、公共空間など地域に眠る資源へ広げ、まち全体の魅力向上につなげていくのが「リノベーションまちづくり」です。費用面の負担が少なく、事業化へのスピードが速いという特徴もあって、近年全国で注目され、広がりを見せています。

未活用だった建物や空間が新しいお店や人が集う場所にリノベーションされ、まちに新たな楽しみや出会いが生まれたり、市内外から人が訪れたりすることで、エリアの価値が高まっていきます。

沼津でも、熱い思いを持った多くの担い手が様々な活動を行ってきました。例えば沼津新仲見世商店街では、建物のリノベーションに加え、老朽化したアーケードの撤去により、人が集まる心地良い空間が創出されています。また、中央公園では定期マーケット「週末の沼津」が開催され、人が行き交い交流する風景が生み出されました。

## 沼津にはまだまだ面白いことがいっぱい

いくんです。それも参加者の熱い思いと行政の支えがあってこそですね」と話します。

杉澤さんによると、継続して関わることでリノベーションまちづくりの魅力だとのこと。「沼津は好きなことを行動に移す人が多いから、自然と魅力のあるまちづくりにつながっていることですね。使われなくなっていた場所が、新しい出会いや挑戦の始まりの場として生まれ変わる未来を、みんなで一緒に育てていきたいです」と話してくれました。

場所を再生するだけでなく、まちを変えていく人を見つけられるのもこの取組の面白さ。企業版リノベーションスクールで業種や立場の異なる人たちが自社の取組を語り合う姿からは、まちへの愛を感じました。「人によるまちづくり」が、新たな出会いと挑戦を生み出し続けています。

企業版リノベーションスクールの詳細は[こちら](#)



企業版リノベーションスクールの詳細は[こちら](#)

## リノベーション 意外と身近

